

■ ポスター発表 9 (第 3 会場)

コロナ禍でのマスク着用が口腔内環境に及ぼす 影響に関する意識調査

香川県歯科衛生士会

○成行稔子¹⁾、岩本充子¹⁾、玉田由樹子¹⁾
山本かおり¹⁾、久保万友美¹⁾、松尾明美¹⁾
木戸みどり¹⁾、藤森浩平²⁾

【目的】 県民の歯科疾患予防意識の向上ならびに歯科受診に繋げる啓発方法を検討するため、コロナ禍におけるマスク着用が口腔内環境に及ぼす影響等について街頭アンケートにより調査し、分析を行った。

【対象および方法】 アンケートに同意を得られた 322 名（男性 101 名、女性 221 名）を対象とした。街頭で無記名のアンケート調査を実施し、データは個人が特定されないように匿名化加工してクロス集計等の分析を行った。

【結果及び考察】 鼻呼吸が良いこと、口腔ケアが感染予防になることは概ね認識されているが、マスク生活による口呼吸が唾液の減少に繋がり、口臭やむし歯、歯周病が悪化する要因のひとつとなることをしっかりと周知することが、コロナ禍での歯科保健指導において新たに追加すべき内容として挙げられる。

【結論】 マスク着用による口呼吸がもたらす口腔乾燥による口腔内の環境の悪化と健康被害の関係性を具体的に啓発し、歯科受診に繋げていくことが必要である。



■ 略歴 1980年 香川県歯科技術専門学校 卒業
1980年～2021年
三豊総合病院 勤務
2021年～
穴吹パティシエ福祉カレッジ(介護福祉学科)
非常勤講師

■ 共同発表者 1) 香川県歯科衛生士会
2) 香川県健康福祉部 健康福祉総務課